

コロナ禍多分野から知見

常葉大HP、教員が情報発信

常葉大はこのほど、様式」に向けて、それぞれの研究分野から暮らしのヒントや今後の社会情勢などについて知見を示す。第1回は江藤秀一学長が「言葉には垢(あか)がつく」と題し、感染者や医療関係者に対する偏見や心ない発言などへの注意を促した。第2回は須佐淳司・地域貢献センター長が「アフターコロナの地域と観光」をテーマに、近場を巡ることで地元の観光業を盛り立てることができると呼び掛けた。



通信は3日現在、6本が公開されている。配信は7月まで続き、40人超の教員が参加する予定。同大の担当者は「多様な学問分野の英知を結集、発信することで、コロナ禍を少しでも軽減できたら」としている。

大学案内 | 学部・大学院 | 附属機関 | 就職・キャリア | キャンパスライフ | 研究推進 | 地域連携 | 留学・国際交流 | 入試情報

ここはWeb通信 新型コロナウイルスを考える

> Vol.1

> Vol.2

> Vol.3

> Vol.4

> Vol.5

> Vol.6

> 大学関連情報

> 静岡県文教エリア等の発展に向けた相互連携協議会

LINE@ Instagram

ここはWeb通信 新型コロナウイルスを考える

パンデミック、クラスター、オーバーシュート、ロックダウン

この病気が初めて出てきて、専門家がテレビで説明したとき、「パンデミック」、「クラスター」、「オーバーシュート」、「ロックダウン」という訳の分からない用語が飛び交った。早々とから日本語でわかりやすく言い訳という注文が出された。『感染症の蔓延』、『感染症』というように日本語が置かれるようになった。『クラスター』や

お問い合わせ 企業アクセス

コロナウイルス、coronavirus、新型コロナウイルス、Covid-19

コロナウイルスは英語でcoronavirusであるが、coronaは「王冠」という意味のラテン語、virusは「毒液」という意味の同じくラテン語を語源とする語である。この我々に病気をもたらす物体が発見されたとき、丸いその物体のふちに王冠の突起のようなものがあるので、coronaだ、しかも毒(virus)を持っている、そこでCoronavirusと名付けたのだろう。日本語には外来語を取り入れるのに便利なカタカナ表記があって、英語のcoronavirusを「コロナウイルス」という日本語読みにして使っている。中国語では「新型コロナウイルス」というので、coronaとvirusのラテン語の意味を漢字で表していることがわかる。この病気の「実態のようなもの」を知るには、日本語のカタカナ表記よりも中国語の漢字表記の方が私たちにわかりやすい。このウイルスがもたらす病気の英語名はCovid-19で、日本語では「新型コロナウイルス感染症」と一般に呼ばれている。英語のCovid-19はcoronavirusのcoとviに「病気」の意味を表すdiseaseのdを組み合わせたもので、19は2019年に発生あるいは発見したことを表している。

パンデミック、クラスター、オーバーシュート、ロックダウン

この病気が初めて出てきて、専門家がテレビで説明したとき、「パンデミック」、「クラスター」、「オーバーシュート」、「ロックダウン」という訳の分からない用語が飛び交った。早々とから日本語でわかりやすく言い訳という注文が出された。『感染症の蔓延』、『感染症』というように日本語が置かれるようになった。『クラスター』や

常葉大の教員が新型コロナウイルスに関連した情報を発信するコーナー(同大公式ホームページより)